

令和7年度 歴史総合, 日本史探究 一般選抜A日程 (2月5日)

(解答番号 1 ~ 40/あ~お)

解答番号	解答	解答番号	解答	解答番号	
1	3	22	3	あ	記述式
2	4	23	4	い	記述式
3	1	24	1	う	記述式
4	1	25	3	え	記述式
5	4	26	2	お	記述式
6	1	27	3		
7	1	28	1		
8	4	29	1		
9	4	30	2		
10	2	31	4		
11	3	32	2		
12	1	33	1		
13	4	34	2		
14	3	35	2		
15	1	36	4		
16	3	37	4		
17	2	38	3		
18	1	39	2		
19	3	40	4		
20	4				
21	3				

あ

天平文化は、奈良時代の天平年間（729～749年）を中心に栄えた文化。鎮護国家の思想により国家仏教が発展して僧侶が活躍した。興福寺の「阿修羅像」のように、表情豊かで調和の取れたものが多い。

い

将軍に仕える家来のことを特に「御家人（ごけにん）」と呼ぶようになった。

頼朝は御家人に対して、土地の支配を保証し、戦の功績に応じて土地を与えた。これを「御恩（ごおん）」とよぶ。

御家人はこの御恩に対して、戦（いくさ）があれば戦場におもむき命がけで戦い、朝廷や幕府の警護にもあたるようになり、これを「奉公（ほうこう）」という。「ご恩」と「奉公」から成る主従関係を基礎とした社会制度の「封建（ほうけん）制度」が確立したため、武士の統率に成功した。

う

地主手作りとは、貸付地を所有する地主が雇い人を雇って自ら耕作を行う農業経営形態のこと。明治中期頃まで各地に存在し、一般的にその時代の平均規模を上回る土地を所有する比較的大規模な農業経営者が行っていた。

え

長州征伐後、反幕府の思想と、開国進取の思想を薩摩、長州が持つようになった。結局、日本は開国したが、不平等な条約を受け入れる。こうした混乱の中、尊王攘夷が広まった。

お

原敬は政友会に有利な小選挙区制を導入し、解散後の選挙で政友会を圧勝に導いた。しかし、専制的な原内閣に対する民衆の不満は蓄積し、普通選挙は実現しなかった。